

智永山 性蓮寺 (富士見市水子)

みずほ台駅東口を出発して徒歩1分、県道ふじみ野朝霞線「みずほ台駅入口」の信号を右折、「並木」の信号を志木方面に向かいます。並木の交差点には並木地蔵尊が往来する人々を見守ってくれています。10分ほど歩くと、左に水子氷川神社、右に地蔵尊が見られます。5分ほど坂を下ると、浦和所沢ハイパスに到着。ハイパスの手前に性蓮寺の看板があるので左折して10分ほどで寺です。

性蓮寺は日蓮宗の寺で、本尊は薬師如来像です。「新編武蔵風土記稿」によると室町時代、智永院日性上人により開山されました。北條家の旗本といわれる上田周防守難波田城主の菩提寺です。兵火により本堂や建物を焼失、上田周防守により再建されました。その後も戦火にあったというので、現在の本堂は平成15年に完成したものです。境内には鐘楼堂、鬼子母神堂、稲荷堂、水子観音などもあります。帰りは来た道に戻るか、柳瀬川駅に行くこともできます。近くには石井緑地公園(通称どんぐり山)や鎌倉道も残っていますので散策してみてくださいはいかがでしょう。(画角)



鎌倉道



性蓮寺本堂

神社・仏閣巡りはいかがですか

今月号では昨年に引き続き、編集委員のおすすめの神社・仏閣をご紹介します。心を落ち着けたいときや、日常を離れてリフレッシュしたいときには、神社や仏閣をめぐるってみませんか？



弘法大師像



大應寺鐘楼門・本堂

水光山不動院 大應寺 (富士見市水子)

大應寺は、みずほ台駅東口から徒歩20分ほどの地にある真言宗智恵山派の寺院です。創建は不詳ですが、室町時代から、下つても戦国時代には存在したようです。お寺を訪ねると、江戸時代の享保4年(1719)に建られたという鐘楼門がまず目に入ります。歴史を感じさせる建造物で上層が鐘撞堂になっています。

また、本堂は寛政元年(1789)に建立されたものが、今から16年前に建て替えられたのです。言い伝えによれば全国を回っていた弘法大師空海が水子を通った際に、沼が赤く光り大日如来が應現(仏様が現世に現れる)したので大應寺になったとか。弘法大師は大日如来が変身した不動明王を刻み、大應寺を建立していったのです。

なお、回寺は地域の子弟の教育にも熱心に取り組まれました。江戸時代に4代にわたって僧侶が寺子屋の師匠を務めていた、この記録が残っています。取材は秋だったので見ることはできませんでしたが、春に伺えば鐘楼門に向かう参道沿いでは満開の桜の花が迎えてくれるでしょう。(出井)

神社仏閣の違いを比較

神社は日本で自然発祥した土着の宗教をもとにしています。自然災害は神の怒りと捉え、今日の無事を感謝し、畏敬の念をもって、さらさら今後の無事を願掛けする場所です。

お寺は本来、仏の教えを学ぶ所で、お釈迦様の教えを信仰し仏様と一体となり導いてくれる場所です。身近な菩薩様にお願ひ事で、薬師如来に願ひが届くように、澄んだ心で手を合わせる場所です。(吉田)

	神社	仏閣(寺院)
信仰	神道(日本の神様)	仏教(仏様)
歴史的背景	日本起源の宗教で、多くの神を信仰します。八百万の神々です	インドで発祥、中国を経由して伝わった外来の宗教です
目的	現世での幸福や利益、自然への感謝を祈願する	悟りや解脱を求め、死後の世界や魂の救済を考える
入口	鳥居があり、俗世と神域を区切っている	山門、鐘楼門があり、仏塔、お墓、仏像がある
建物	木材を生かしたシンプルな造り	瓦屋根の立派な建築が多い
守護神	境内の入口の左右に狛犬が阿像(獅子)と吽像(狛犬)	山門に仁王像(金剛力士像)が阿形と吽形の二体
参拝方法	一礼し、鈴を鳴らし、お賽銭を入れ、二拝二拍手一拝し祈る 最初の拍手で来たことを告げ、2回目の拍手で神様と一体になります	お賽銭を入れ、合掌して祈る 背筋を伸ばし、指をまっすぐ伸ばして合掌し、上半身をかがめて一礼する
敷地内の注意点	参道の真ん中を避けて歩くこと なぜ? 真ん中は神様の通り道だから	山門の敷居を踏まないこと なぜ? またぐときに下を向き頭が自然と下がるから
葬儀	死は「穢(けが)れ」と捉えるため、葬儀は行わない	死者の霊を思い、供養や葬儀を行う
信仰の対象	ご神本は、普段は見られない	本堂に仏像が祀られており、いつでもお参りできる

浅間神社 (三芳町藤久保)

富士見市と三芳町の境に位置する住宅街の中に「浅間神社」は整然と祀られています。当神社は、秩父の東乗院の先達により当地へ移住創建されたと伝えられています。

浅間神社は、富士山信仰に基づき富士山を神格化した「木花之佐久夜毘売命」を祭神とする神社で、多くの利益があるといわれており、特に毘売命が燃え盛る火の中に出産したと言い伝えられ、子宝を授かる神と崇められています。



住宅地の中にある浅間神社

全国には、約130社存在し、富士山の噴火を鎮めるために祀られたことが浅間神社の始まりといわれており、本宮は「浅間大社」となっています。

大晦日には、浅間神社を信仰する方々、保存会の皆様が集い、400人近くの来訪者を受け、新年初の運試しとして「引きまわし」を行い、甘酒が振舞われ、新年を祝うことが恒例となっています。

また保存会として毎年本宮である浅間大社詣のため富士山登山が実施され、お札を浅間神社に奉納する等のさまざまな行事が行われています。

常日からは、厳かに祀られている神社を信仰心に溢れた多くの人々とともに訪れて新年迎えてみてはいかがですか。(堀口)



来年の初詣は浅間神社へ